

2 長崎県内でのこれまでの予防教育の実施状況と生徒の現状

(1) 予防教育実施の状況

平成 16 年度に、「長崎県ながさきパートナーシップ創造事業」により開始した予防教育は、その後、市町の主催、学校主催、民間団体の支援を受けての実施などにより、県全域に広がりました。さらに、平成 22 年度から、長崎県DV予防教育指導者養成講座の開催などによって、継続・実施され、これまで県内の高校で 276 回、約 66,000 人、中学校で 134 回、約 15,000 人が受講しています。

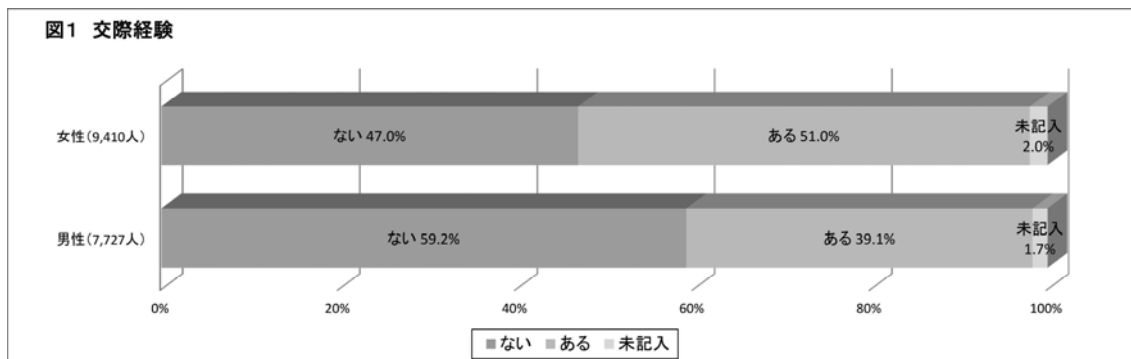
(2) 高校生へのアンケートからみた現状

予防教育を実施した直後に実施する高校生のアンケートでは、被害の経験の有無、授業への感想などについて書いてもらっています。平成 23 年度と 24 年度途中までの結果を以下のとおり紹介します。

学校差は多少ありますが、県内各地における数値にはほとんど差がありません。

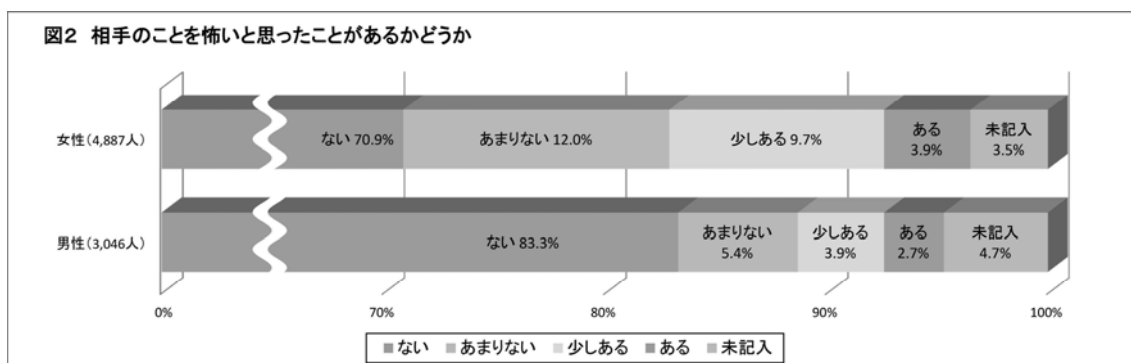
① 交際経験の有無

交際経験の有無を尋ねたアンケート調査結果（図 1）では、高校女子は 9,410 人中 51.0%、高校男子は 7,727 人中 39.1%が交際経験ありと答えています。このアンケートの対象は 1 年生が多かったため、この数字になっていますが、3 年生になると、男子は 50%以上、女子は 60%～70%が交際経験ありとなる場合が多いです。



② 相手のことを怖いと思ったことがある

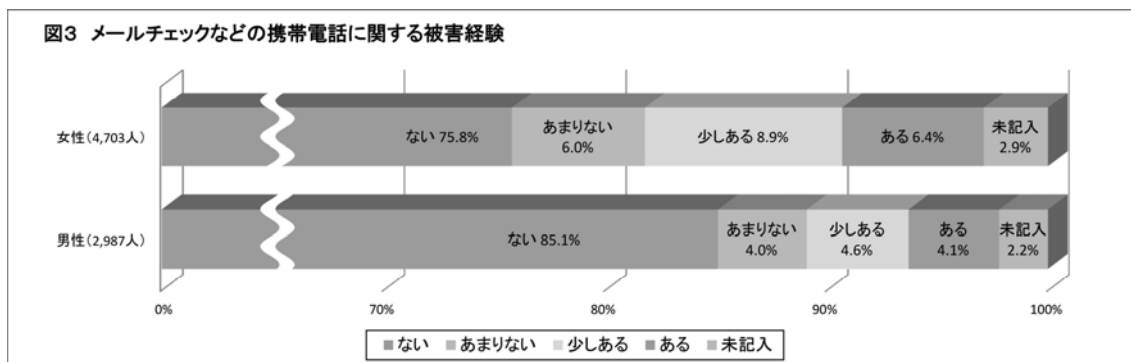
交際経験があると答えた生徒に、「相手のことを怖いと思ったことがあるかどうか」と尋ねた結果（図 2）では、女子では「ある」3.9%、「少しある」9.7%となっており、「ない」と答えたのは 70.9%です。男子では「ある」が 2.7%、「少しある」3.9%、「ない」と答えたのは 83.3%で、男女差が大きい結果となりました。



③ メールチェックなどの携帯電話に関する被害経験

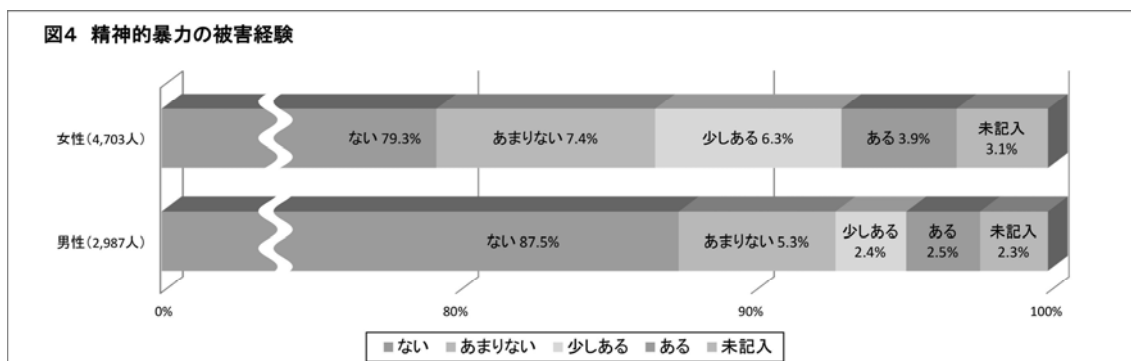
被害経験については、4つの項目を尋ねました。

メールチェックなどの携帯電話に関する被害経験（図3）では、図3のように、女子は、「ある」6.4%、「少しある」8.9%。男子は、「ある」4.1%、「少しある」4.6%となっています。



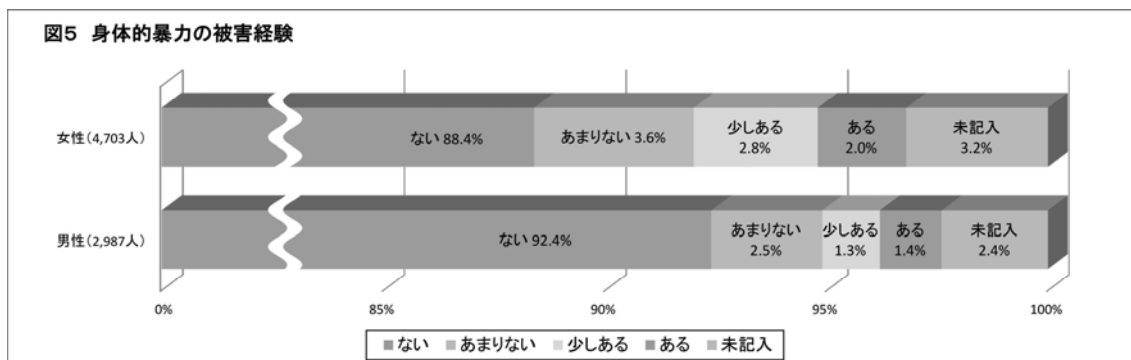
④ 精神的暴力の被害経験

暴言や束縛などの精神的暴力の被害経験（図4）では、女子は、「ある」3.9%、「少しある」6.3%。男子は、「ある」2.5%、「少しある」2.4%となっています。



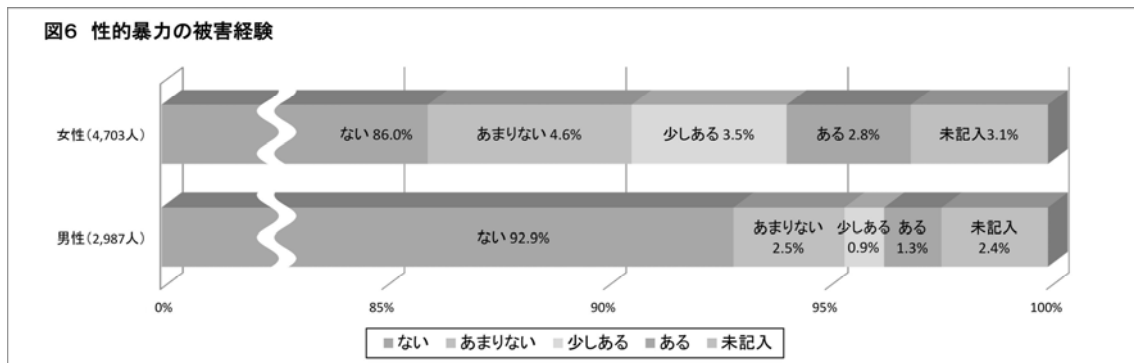
⑤ 身体的暴力の被害経験

叩くなどの身体的暴力の被害経験（図5）では、女子は、「ある」2.0%、「少しある」2.8%。男子は、「ある」1.4%、「少しある」1.3%です。



⑥ 性的暴力の被害経験

性的な被害経験（図6）では、女子は、「ある」2.8%、「少しある」3.5%。男子は、「ある」1.3%、「少しある」0.9%となっています。



以上のように、現状では、被害のどの項目を見ても、女子の方が男子よりも被害を受けている割合が大きくなっています。高校生になると、学年が上がるにつれ、男女交際をする生徒の割合が増えてきます。アンケートの中の自由記述などからは、相手に嫌われるのが心配で、束縛やその他の暴力に対して、嫌だと言えないと感じている女子生徒が多いと推測します。

また、交際相手のことを怖いと思ったことがある女子は、図2にあるように男子の倍以上あります。相手を怖いと思ったことがある生徒ほど、被害を多く受けています。男子の腕力や声などの威嚇を恐れることから、相手と対等な関係で適切な自己主張ができていない場合が多く、それがDVの被害を受けてしまう背景となっていると思われます。

予防教育によって、どんな場合も暴力を我慢してはいけないこと、対等な関係をもつことの大切さを知り、被害を未然に防ぐことを学んでほしいと願います。

ケータイって便利だけど、こわいときもある



これって、心への暴力だよ